

兵庫県東播磨県民局

ミュージアムへのご招待

播磨はゆたかな土地だ、とよく言われます。

それは、長くこの国が米を経済の基盤としてきたからで、厳しい天候におびやかされることのない播磨では、米がゆたかに実ったからです。

米は人々の生命をささえる主食であったばかりか、どんな商品とも即座に交換できる普遍的な価値があり、保存がきくので蓄えれば富となりました。そのため、米がたくさん穫れる播磨は、いつの時代も中央の権力者たちの米倉となり、守られてきたのです。



播磨人がおしなべて、争うことを好まず、人よりぬきんでるのを望まないのは、村域一体となって足並みをそろえねば成功しない米作の、千年を越える歴史が作り上げた気質かもしれません。

米作こそが人生であった我々の先祖は、天の神々に愛されたこの地に感謝しつつ、人の力のできる努力も惜しみませんでした。さらなる米の収穫を上げるため、何より大事な「水」の確保は、最優先の課題だったのです。そこで築かれたのが「ため池」でした。

その数、日本一。これだけのおびただしい数は、他府県では見ることはできません。

それは、風土の恩恵に甘えることなく、人間がひたむきに知恵や技術を積み重ね、よりよい明日に向かって邁進してきた叡智の証。播磨がけっして他の土地と同じでない、特別な地であることの象徴です。

とはいえ、現代は、食生活も産業構造も、すっかり米から離れてしまい、ため池も忘れ去られていこうとしています。今、確実に言えることは、これらが失われてしまえば、播磨は日本全国どこにもある中途半端な地方と同じになってしまい、二度と取りもどせない、ということです。

これは最後のチャンスかもしれません。今ならまだ、子供たちに播磨のゆたかさを誇り、日本一のこの土木遺跡を託すこともできます。

まずこの本を手に、ため池を訪れてみてください。

そこに、あなたの、ふるさとがあります。あなたが選ぶ播磨の未来も、あるはずです。

いなみ野ため池ミュージアム運営協議会会長 玉岡かおる